

福山市老人大学 第46期 修了式 式辞

本日は、枝廣福山市長のご列席・小川市議会議長・柳井市老連会長・池口元老大学長を始めとする多くのご来賓・講師の先生方のご臨席，会場いっぱいの学生の皆さんのご出席をいただき，福山市老人大学2016年度・第46期修了式を盛大に挙行できますことを大変有難く嬉しく存じます。

一年間の学習と活動を終えられ，晴れて今日の修了式に臨まれた学生の皆さん，おめでとうございます。

今年度の複数教科受講生を含む延べ学生数は2911名，その内，20回以上の講義などに出席して修了証書を授与された方2713名，年間36回の全てに出席されて皆勤賞を授与された方は350名です。

健康管理に努め，熱心に通学され，見事，修了証書・さらに皆勤賞を授与された皆さんに重ねてお祝いを申し上げます。

老人大学事務局は，多くの高齢者の学習ニーズに応えるため，今年度の本講座について

- 1 手芸とハーモニカの2教科を廃止
- 2 園芸と民謡を3クラスから2クラスに削減

に変えて，

- 1 英会話2クラスと茶道抹茶に研究科を新設
- 2 古典文学の3クラス目及び太極拳の2クラス目の増設
- 3 パソコンは，教室の機器を更新して，初級科の新設と研究科にコース制を導入しました。

そして，大学運営の合言葉を，「健やかに・穏やかに・和やかに」から「健やかに・健やかに・そして穏やかに」と改め，

- 1 全身を直接使う教科である太極拳の2クラス化
- 2 老人大学を会場とする健康診査の継続
- 3 短期講座「イキイキ体操」の新設
- 4 卓球クラブの活動場所に講堂を追加して活動スペースを拡大
- 5 休憩時間のラジオ体操伴奏曲を方言入りに改めるなどを行いました。

今年度は，福山市市制施行100周年の節目の年でした。老人大学も

- 1 「100万本のばら」に協賛して「ばらづくり」講座の充実と受講生によるばら花壇のお世話

- 2 100周年記念誌「ともに歩んだ一世紀」に、
 老大水彩画の学生14名が百歳の方の肖像画を描いて参画
- 3 学生会の財政支援を得て、記念映画「探偵ミタライの事件簿～星籠の海」鑑賞券の
 積極販売
- 4 夏祭り二上りに、新調した「老大」の文字入り法被130着などを羽織って、これ
 また新調したプラカードを掲げて、過去最大規模の150名の大隊列で通算10回目
 の出場を果たし、表彰状をいただきました。

7月の始め、東京のテレビ番組制作会社から電話があり、「BS7チャンネルの『空から日本を見てみよう+』という空撮番組で福山を取り上げようと思っている。福山の特長的な所、十数か所を取材する予定だが、老人大学も対象にしたい」との申し出でした。

「ありがたい話ですが、どうして老人大学を選んで下さるのですか？」とお尋ねするとホームページを見てユニークだと思ったから」とのご返事でした。

7月中旬に打ち合わせにお越しになり、7月22日・一学期最後の日に取材に来られました。

英会話や墨彩画の教室風景を撮影され、私に老人大学とはどういう所かとインタビューされ、名物学生を紹介するようになるといふことで、95歳を迎えた今もしゃんと背筋を伸ばし元気に学級委員長も務められる34回生の藤枝晴美さんにインタビューを受けていただきました。

藤枝さんの信条は、薬を飲むより老大に通う方が健康に良い。というものです。

福山の歴史と文化を代表する鞆の浦・阿伏兎観音・福山城、
物づくりの街・福山を支えるJFEスチール・常石造船・エフピコ・日東製網・備南工業などと並んで老人大学が取り上げられたことに驚きました。

初放映は10月25日、再放映が1月3日に行われ、大勢の方がご覧いただきました。

福山市は、その知名度を向上させる様々な取り組みがなされていますが、我が老人大学も一役買うことが出来たと喜んだ次第です。

今年で5回目となる福山医師会看護専門学校生41名の教育実習を1月から受け入れました。

看護学生たちは、一様に老人大学生の元気さと学習意欲の高さ、病院実習で看護した高齢者との違いに驚き、高齢者への見方を改めます。

実習レポートには、「みんな笑顔で目がキラキラ、顔が明るくお洒落」

「目的を作って、家の外に出ることで元気に過ごせる。人に会うから会話出来る。友達も出来る。みんなと一緒にだから勉強が続けられる」とのことだ。

「高齢者は、家の中で過ごすことが多いと思っていたが、老人大学では、授業はもちろん、掃除、休憩時間のラジオ体操など、時間に合わせて動かれ、表情が生き生きとしていて学ぶ楽しさに溢れていた」

私は、正直、長期入院の高齢患者が自力で歩けるまでに回復するのは難しいと考えていたが、「手術をしてもらって、老人大学に戻って勉強を続けている」と聞いて、患者さんの残存機能を決めつけて線引きしてしまっただけではいけないと学んだ。

骨折をしてコルセットを巻きながらも二八年目の老犬生活を楽しまれている方が居られた。

「心臓病で4回死にかけた。4回目はAEDで助けられた。そして今も老犬に通うことが出来ている」と聞いてびっくりした。

生き甲斐を持った人は、はつらつとしていて、よく笑っていることに気付いた。老犬生は、持病や加齢変化と向き合いながら学ぶことを楽しまれているのがよく分かった。高齢者に尊敬の念を持った。

以上が看護学生のレポートの内容です。

老人大学生の多くが、病気と背中合わせの生活をされているのは事実です。

- ・体調不良を訴えて欠席される人
- ・入院することになったので休学する人
- ・もう通学がしんどくなった、配偶者の介護をしなければならなくなったなどを理由に退学を申し出る人
- ・そして、今年度は12人の老犬生が他界されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

老犬生にとって、最大の目標は健康です。「健康が一番・健康ファースト」。これが老犬生と老人大学の第一テーマです。

入院して治療に専念され、復学を果たされる方も多く居られます。老人大学の楽しさが、高齢者の病気を克服する意欲と元気を引き出していくその役割は、全国からも注目されています。

老人大学は、これからも福山市の高齢者福祉施策の一翼をしっかりと担って、高齢者の健康づくりに貢献していく決意を申し述べ、式辞といたします。

2017年（平成29年）2月28日

福山市老人大学学長 高橋 和男